

現生人類が誕生してから数十万年、人間、とりわけ新人は歴史の中で常に「神」を想像し、作り上げてきた。西ではギリシア神話やエジプト神話、東では日本神話や中国神話などさまざまな神話が存在する中で、最古の神話と言われるのがメソポタミア神話だ。その中でも人類最古の物語とされるギルガメシュ叙事詩やバビロニア神話の創世記叙事詩であるエヌマ・エリシュなど様々な物語があり、主要な物語だけでも数十編存在し、特定の神々を讃える短い神話や讃歌を含めると数百にもものぼるとされている。当時、文字を書ける人間というのは非常に限られていたにもかかわらずどうしてここまで膨大な量の神話や物語を残すことができたのだろうか。また、本稿では神話が膨大に残された背景をもとに、神話が政治的安定に与えた影響について考える。

今からおよそ六千年前のメソポタミアではシュメール人が文明を興し、ウル・ウルク・ラガシュといった都市国家を成立させ、繁栄していたと考えられている。そのような流れの中で独自の文化を形成し、神話や物語といった文学作品を成立させていった。前二千年頃、アッカド人によってメソポタミアは征服されるが、シュメール人の文化、とりわけ神話はアッカド人に継承されアッカド文化との習合が行われた。その後、メソポタミアを統治する王朝や民族によってそれらの神話は継承され、またそれらに独自の信仰を加えるなど発展し、広がっていった。このようにしてシュメール神話に始まるメソポタミア神話は長きにわたって古代西アジア世界に広がり、多くの人々や民族によって信仰されたことが先述の時代背景があったにもかかわらず残すことができた要因だと推察される。

そこで私はこれらの地域的、断続的に発生した神話の共有と、メソポタミアにおける被征服民による独立運動の少なさには関係性があるのではと考察した。

それを裏付ける理由として、古代メソポタミアではアッシリアやダレイオス3世治世のペルシアに対する大規模な反乱などの一部を除いて征服した民族・国家に対する反抗運動や反乱が少ない傾向にあった。例外として挙げたアッシリアやペルシアに対する反乱は厳しい統治政策や苛酷な徴税、軍役奉仕に対する不満から発生した反乱であり、紀元前5世紀に起こったエジプト人によるペルシア支配に対する反乱や紀元前6世紀に起こったヘブライ人によるバビロン捕囚からの解放運動のような宗教的・民族的アイデンティティに基づく反乱・運動ではなかったとされている。

エジプト人の信仰やヘブライ人の信仰というのは地理的要因や教義の内容などから他の民族や勢力に広がるのが大規模的に起こらなかったため、信仰の一致という面から民族的アイデンティティが育まれていき、それが結果的に征服勢力に対する反乱や民族運動の動力源として顕在化したのではないかと推測される。

一方、古代メソポタミアでは先述したように様々な民族が興亡を繰り返し、その度に神話や文化は引き継がれ、征服者の文化や信仰と混ざり合い発展し、広がっていった。このようにシュメール神話に始まるメソポタミア神話というのは大きく形を変えることなく様々な民族や国家に信仰されたことで、民族ごとの信仰の独自性が希薄化し、同時に個々の民族的アイデンティティが薄まっていった。その結果アケメネス朝によるメソポタミア支配や、アレクサンドロスやディアドコイといった異民族による支配期間中も民族的アイデンティティに基づく大規模な反乱が起きなかったのではないかと考えた。そのためメソポタミアでは先述した苛酷な徴税や軍役奉仕を求めず、寛容な統治を行ってさえいれば反乱を引き起こされるリスクは小さかったと考えられるのである。

このように民族の隔たりを超えて行われた神話の広範な受容と習合はメソポタミア

の征服や戦争という歴史の中で民族間の壁を壊し、結果として民族運動を原動力とした大規模な反乱が起こりにくくなったことに自然的につながった可能性がある。ナショナリズムの高揚が大きな影響を及ぼした二度の世界大戦を経て訪れた現代のグローバル社会において、再びナショナリズムの波が広がりつつある今、古代メソポタミアにおける宗教と政治の関係性は、数千年の時を超えて現代社会における文化的対立の沈静化の可能性を示唆している。

【参考文献】

ジョージ・ハート著 阿野令子訳『エジプトの神話』

東ゆみこ監修『ビジュアル版 一冊でつかむ世界の神話』

『新アッシリア、新バビロニア、滅亡（紀元前 1114 年～紀元前 538 年）』（コロラド州立大学）2025 年 10 月 6 日閲覧 <https://web.archive.org/web/20181118194129/https://www.cemml.colostate.edu/cultural/09476/iraq02-05enl.html>

イラン百科事典第 2 巻第 8 分冊 pp. 806–815 収録『アッシリア 1 アッシリア王国とイランの関係』（M・ダンダマエブ、E・グラントブスキ著、1987 年）2025 年 10 月 6 日閲覧 <https://www.iranicaonline.org/articles/assyria-i/>

ユダヤ百科事典 pp. 45–46 収録『選ばれた人々』（編集執行委員会、カウフマン・コーラー著）2025 年 10 月 6 日閲覧 <https://www.jewishencyclopedia.com/articles/4355-chosen-people>

イラン百科事典第 3 巻第 3 分冊、pp. 325–326 収録『バビロン』（G.カルダシア著、1988 年）2025 年 10 月 6 日閲覧 <https://www.iranicaonline.org/articles/babylon-under-the-achaemenids/>